

## 無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

**目的** 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成果**
1. 無形文化財に関する調査研究
    - ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
    - イ) 工芸分野：靱皮繊維の製作技術に関する調査（沖縄県立博物館、貝澤雪子氏工房）、及び絹糸製作技術調査（岡谷蚕糸博物館）



共催事業「伝統の音を支える技」の様子

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
  - ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席・林家正雀師4席）
  - イ) 古典芸能：平家（菊中央雄司氏ほかによる復元曲1曲）及び宮園節（宮園千碌氏ほかによる古典曲1曲、新曲1曲）の実演記録を作成

3. 研究調査に基づく成果の公表
  - ア) 東京邦楽器商工業協同組合・東京文化財研究所共催事業「伝統の音を支える技一第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座」(東京文化財研究所、8月3日)
  - イ) 総合研究会「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵音声資料のデジタルアーカイブ化に向けて」(東京文化財研究所、1月8日)



総合研究会の様子

- 論文**・前原恵美：「江島弁財天信仰と常磐節演奏家一浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集の図〉を起点に」『桐朋学園大学研究紀要』2018年第44集 pp.81-102 18.10
- ・飯島満：「『故文耕堂之本作』訛伝考」『無形文化遺産研究報告』13、pp.70-86 19.3
- 報告**・前原恵美、橋本かおる：「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告2」『無形文化遺産研究報告』13 pp.23-46 19.3
- 発表**・菊池理予：「無形文化財の視点からみる染織工芸技術について」共立女子大学博物館 19.1.26
- 刊行物**・「共催事業『伝統の音を支える技一第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回 東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座』報告書」東京文化財研究所 19.3
- ・「日本の芸能を支える技」Ⅰ琵琶・Ⅱ三味線象牙駒 東京文化財研究所 18.7
- ・「日本の芸能を支える技」Ⅲ太棹三味線・Ⅳ雅楽管楽器 東京文化財研究所 19.3

**研究組織** ○飯島満、前原恵美、石村智、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、橋本かおる（客員研究員）

## プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

### 無形文化遺産部

#### 第12回無形文化遺産部公開学術講座 (A01の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は「伝統の音を支える技」の一環として「第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座」を2018(平成30)年8月3日に東京文化財研究所にて開催した。本事業は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団及び文化庁の助成、東京都・公益社団法人日本三曲協会・一般社団法人長唄協会・公益財団法人日本伝統文化振興財団及び東京都伝統工芸士会の後援を受けて開催し、その成果は報告書として刊行した。

日時：2018(平成30)年8月3日(金) 13:30～16:45

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：148名

テーマ：「伝統の音を支える技」

内容：【講演】司会：石村智(無形文化遺産部)

前原恵美(無形文化遺産部)

「楽器製作・修理技術の調査から見えてくること」

橋本英宗(丸三ハシモト株式会社)

「邦楽器系から世界への挑戦—日本の音色を世界の音色へ—」

田村民子(伝統芸能の道具ラボ)

「伝統芸能の道具の課題を社会にひらく」

【総括】「伝統の音を支える技の今とこれから」

上記報告者と下記コメンテーターで総括を行った。

コメンテーター：谷垣内和子(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会)

【長唄演奏】《多摩川》

唄：三井千絵・大島早智 三味線：鈴木雄司・都築明斗



### 保存科学研究センター

#### 加湿温風殺虫処理に関する専門家研究集会 (ホ01の一部として実施)

歴史的木造建造物の木材害虫による被害は、貴重なオリジナルの木材を損失させるだけでなく、虫害によって空洞化した木材は知らない間に構造材としての強度を損なうリスクもあり深刻な問題のひとつである。本専門家会合は、このような虫害のある歴史的木造建造物の殺虫処理方法として国内でも初となった日光中禅寺愛染堂での現地処理試験の成果を報告したうえで、関連分野の専門家のご意見をいただきながら、本法の今後の課題や展望について議論した。

日時：2018(平成30)年6月21日(木) 15:00～17:00

会場：東京文化財研究所 地下会議室

講演：木川りか(九州国立博物館)「大規模ガス燻蒸から加湿温風殺虫処理へ」

藤井義久(京都大学、客員研究員)「日光中禅寺愛染堂での湿度制御温風殺虫処理」

討議：梅津章子、番光、小澤栄一(以上、文化庁)、小暮道樹、長修、原田正彦(以上、(公財)日光社寺文化財保存会)、福岡憲((公財)文化財建造物保存技術協会)、北原博幸(トータルシステム研究所、客員研究員)、佐野千絵、北河大次郎、犬塚将英、小峰幸夫、佐藤嘉則(以上、東京文化財研究所)